

豊かな海づくり

天草の海の豊かさ、大切さを今一度考えていただく“シリーズ「豊かな海づくり」”。最後となる今回は、豊かな海づくりに向けて取り組む人たちを紹介するほか、10月27日(日)に牛深漁港で開催される放流行事や天草豊かな海づくりフェスタについてお知らせします。

高校生と漁業者の共同作業 ～アワビの稚貝を放流～

県内唯一の水産・海洋系の学科を設置している苓洋高校と、素潜り漁を行う天草漁協五和支所・裸潜組合では、毎年共同でアワビの稚貝を放流しています。放流している稚貝は、同組合が体長2cmの稚貝とエサとなる海藻を同校へ提供し、生徒が1～2年をかけて3.5cmになるまで育てたもの。今回は約7,000個の稚貝が用意され、9月12日に五和町の二江沖で生徒5人、漁師8人が参加して行われました。



1 放流されたアワビの稚貝 2 船へ向かう生徒たち 3 7 生徒を見守る同組合の漁師 4 5 6 8 生徒たちはスキューバダイビングで稚貝が付いたプレートに海底に設置 9 同組合の松本末隆組合長と生徒たちで記念の1枚

今後も協力して 取り組んでいければ

放流された稚貝は、約2年で体長10cmくらいになり、水揚げをすることができるようになります。今後も、ぜひ協力して取り組んでいければと思っています。



天草漁協五和支所・裸潜組合
代表 松本 末隆組合長
(五和町二江・45歳)

豊かな海づくりに つなげたい

今日は潮の流れがはやかったので、作業をするのにとっても苦戦しました。この小さな稚貝が大きく育ち、豊かな海づくりにつながってくれたらいいなと思っています。



苓洋高校海洋開発科 3年
ひかる 竹田 輝さん

“海の森”を取り戻そう ～藻場増殖の取り組み～



▲プレートを設置
するようす



▲ヒジキの種苗
プレート



皆さんは、“藻場”をご存じでしょうか。藻場は、海の中で海藻が生い茂る場所のことをいいます。魚介類の産卵場所やすみかになるとともに、水質の浄化や光合成による酸素の生成も担っているため、「海の森」ともいわれています。

近年、この藻場が消失してしまう“磯焼け”といわれる現象が全国各地で発生。天草の海も例外ではありません。

このような中、市内ではこの「海の森」を取り戻そうとする取り組みが始まっています。

御所浦地区壮青年グループによる ヒジキの種苗プレート設置

御所浦町内の20～50歳代の漁業者31人で組織する「御所浦地区壮青年グループ」では、今年度からヒジキの種苗が付けられたプレートの設置を始めました。プレートに付いたヒジキの種苗が海中の岩場に定着することで、藻場をつくろうという試みです。9月6日には、メンバー10人が参加し、御所浦島の西に浮かぶ眉島の海岸に、縦・横20cm、厚さ3cmのコンクリート製の種苗プレート30個を設置。これまでに、御所浦町の各島々にあわせて200個が設置されています。

「藻場がなくなった、魚がいなくなった」と嘆くばかりでは、何も始まらないですね。今年度から始めたこの取り組みは、実際にヒジキが増殖するのかわか、まだ試行錯誤の段階です。それでも、海を良くするために行動するという姿勢が、私は重要だと思っています。

今から50年前、祖父はイワシのまき網漁をしていました。あのころの海を取り戻すことは難しいかもしれませんが、少しでも近づけることはできるはずなんです。

この思いを胸に、みんなで取り組んでいきたいと思います。

地元でマダイやカワハギの養殖を営んでいます。海のそばで30年以上仕事をしていますが、昔と比べると藻場がほんとうに少なくなりました。海の生命力が低下していると感じています。

ただ、「藻場がなくなった、魚がいなくなった」と嘆くばかりでは、何も始まらないですね。今年度から始めたこの取り組みは、実際にヒジキが増殖するのかわか、まだ試行錯誤の段階です。それでも、海を良くするために行動するという姿勢が、私は重要だと思っています。



御所浦地区壮青年グループ
代表 関 隆成さん
(御所浦町御所浦・44歳)

昔の海に少しでも近づけたら